

## 6 - 8 九州地方とその周辺の最近の地震活動 (1994年5月~10月)

### Recent Seismic Activity in and around the Kyushu District (May-October, 1994)

福岡管区気象台

Fukuoka District Meteorological Observatory, JMA

1994年5月~7月及び8月~10月の震央分布を第1図(a)と第1図(b)に示す。この期間の有感地震は、5月5回、6月12回、7月5回、8月7回、9月10回、10月6回の合計45回であった。M4以上の地震は、33回(最大M6.0、9月13日、奄美大島近海、震度3)発生した。

1994年5月~10月の主な地震活動は次のとおりである。

- ・5月以降も1994年2月13日鹿児島県北部の地震(M5.7)の震源付近で地震が時々発生し、一部は現地で有感となった。
- ・5月27日~同月末にかけて鹿児島県指宿市付近を震源とする地震があった。最大地震はM2.7で、現地では震度1程度の揺れを感じた。
- ・宮崎県南部で9月7日~12日にかけて有感地震が4回(最大M5.3)発生した。
- ・奄美大島近海ではM5以上の地震が5回発生し有感となった。このうち6月6日M5.9の地震では、名瀬で震度4、鹿児島で震度2、宮崎・種子島・沖永良部等で震度1を観測した。また、7月2日のM5.3の地震では、名瀬で震度4、沖永良部で震度1を観測した。

#### 1. 宮崎県南部の地震活動 (第2図)

9月7日12時48分、宮崎県南部でM4.5(深さ23km)の地震があり、有感となった。また、同54分にはM5.3(深さ23km)の地震があり、九州と四国の一部で有感となった。有感地震は8日と12日にも発生し合計4回となった。その後も無感地震は10月まで時々発生した。これらの地震による被害の報告はない。メカニズム解は、北北西-南南東の伸張で九州内陸の応力場と調和的である。過去、この付近を震源とする被害地震は知られていない。この地震の後、霧島山の活動に変化は見られない。

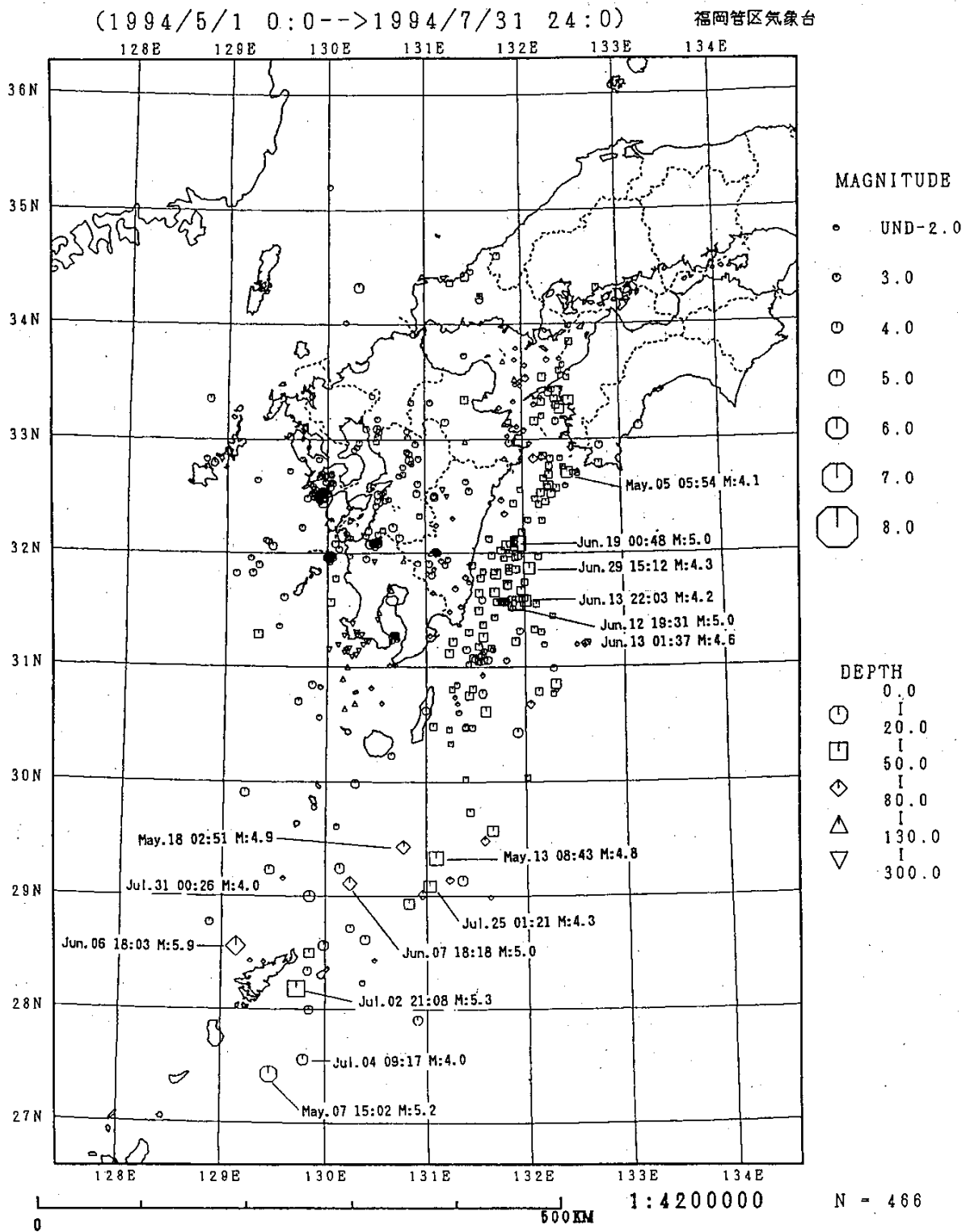
#### 2. 島原半島、橘湾の地震・火山活動 (第3図)

島原半島付近の地震は、普賢岳山頂付近を除いて少ない状態が続いている。雲仙岳測候所は1994年1月6日以降10月末までの期間、島原半島内及び橘湾を震源とする有感地震は観測していない。

雲仙岳山頂付近の地震は5月以降も増減を繰り返したが、10月中旬から発生回数が約38時間の周期で増減する現象がみられた。一方、溶岩の崩落による微動(火砕流を含む)は、8月中旬~9月中旬に多い状態が続いた。特に、8月25日には日回数が219回(過去最多、うち火砕流68回)となった。また、9月中旬にも日回数が100回を超えている。

溶岩ドームの隆起や迫り出しは5月以降も続き、7月12日には第13溶岩ドームの出現が確認されたが、7月22日頃に成長を停止した。

# 1 九州地方とその周辺の地震活動



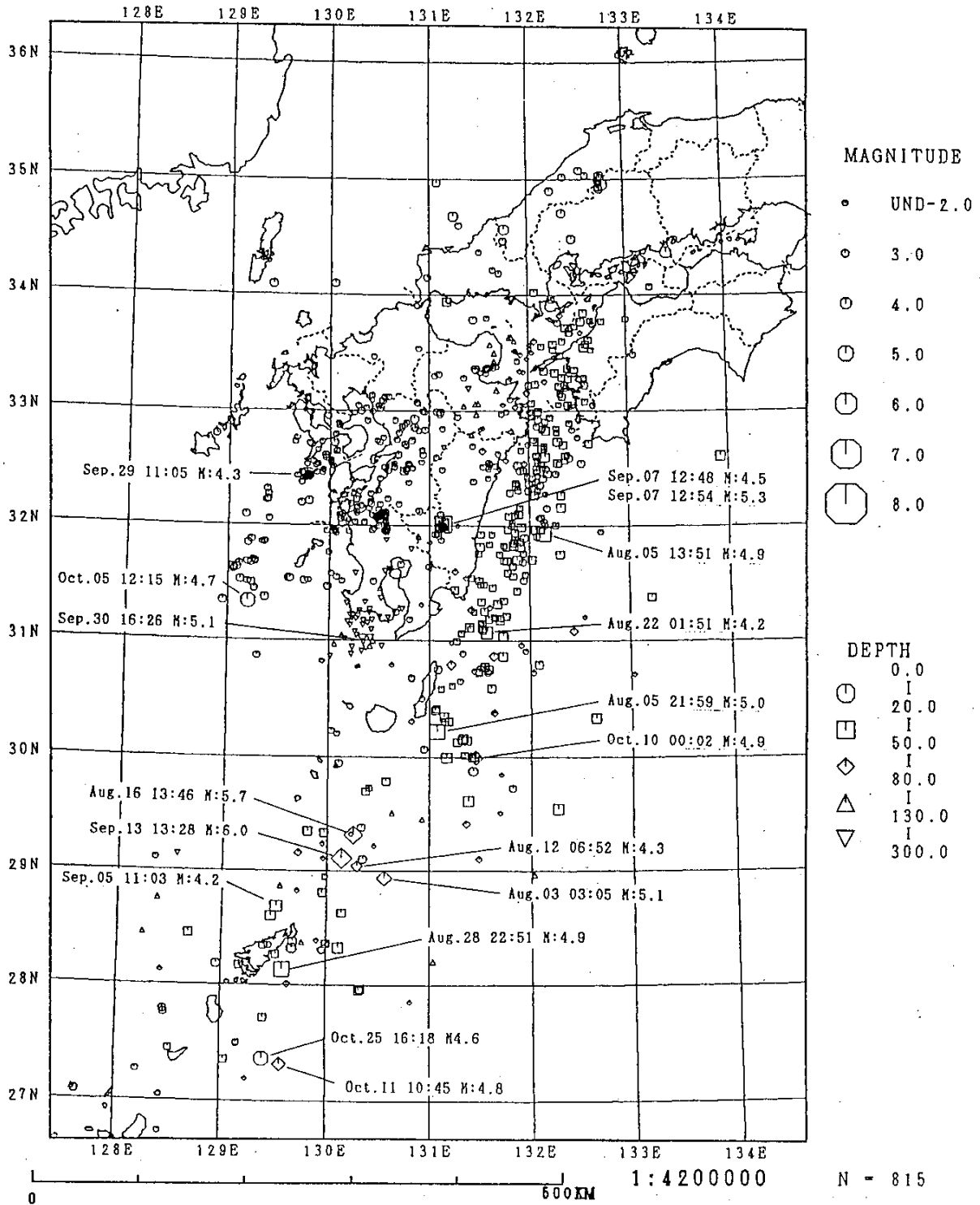
第1図 震央分布図 1:1994年5月~7月 2:1994年8月~10月

Fig. 1 Epicentral distribution in Kyushu District. 1: May - July, 1994, 2: August - October, 1994.

## 2 九州地方とその周辺の地震活動

(1994/8/1 0:0-->1994/10/31 24:0)

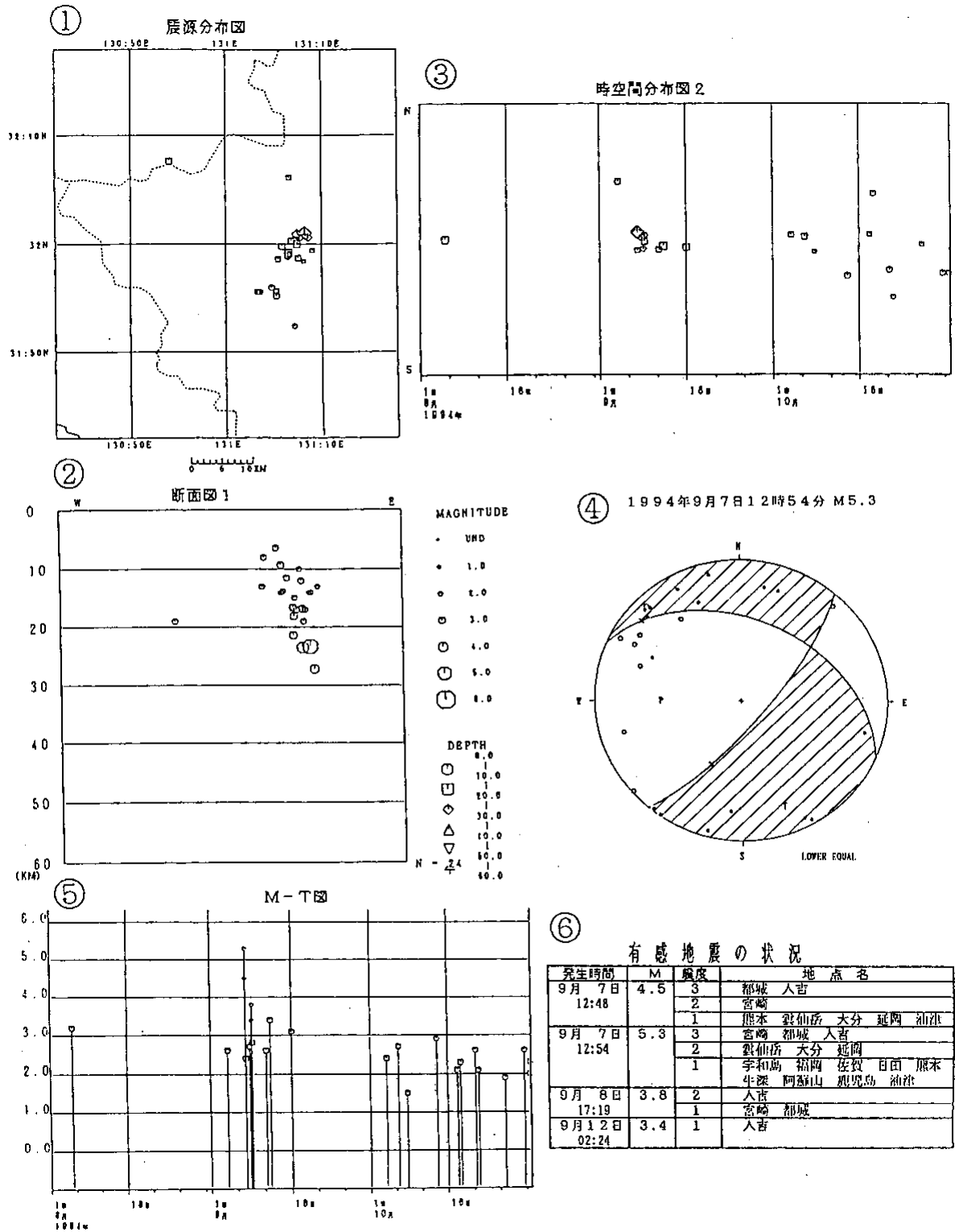
福岡管区気象台



(注) 9月28日より新観測網に切り替え

第1図 つづき

Fig. 1 (Continued)



第2図 宮崎県南部の地震活動 (1994年8月1日~10月31日)

①: 震源分布図 ②: 東-西断面図 ③: 時空間分布図

④: メカニズム解 (下半球投影, ●: 押し, ○: 引き) ⑤: M-T図 ⑥: 震度分布表

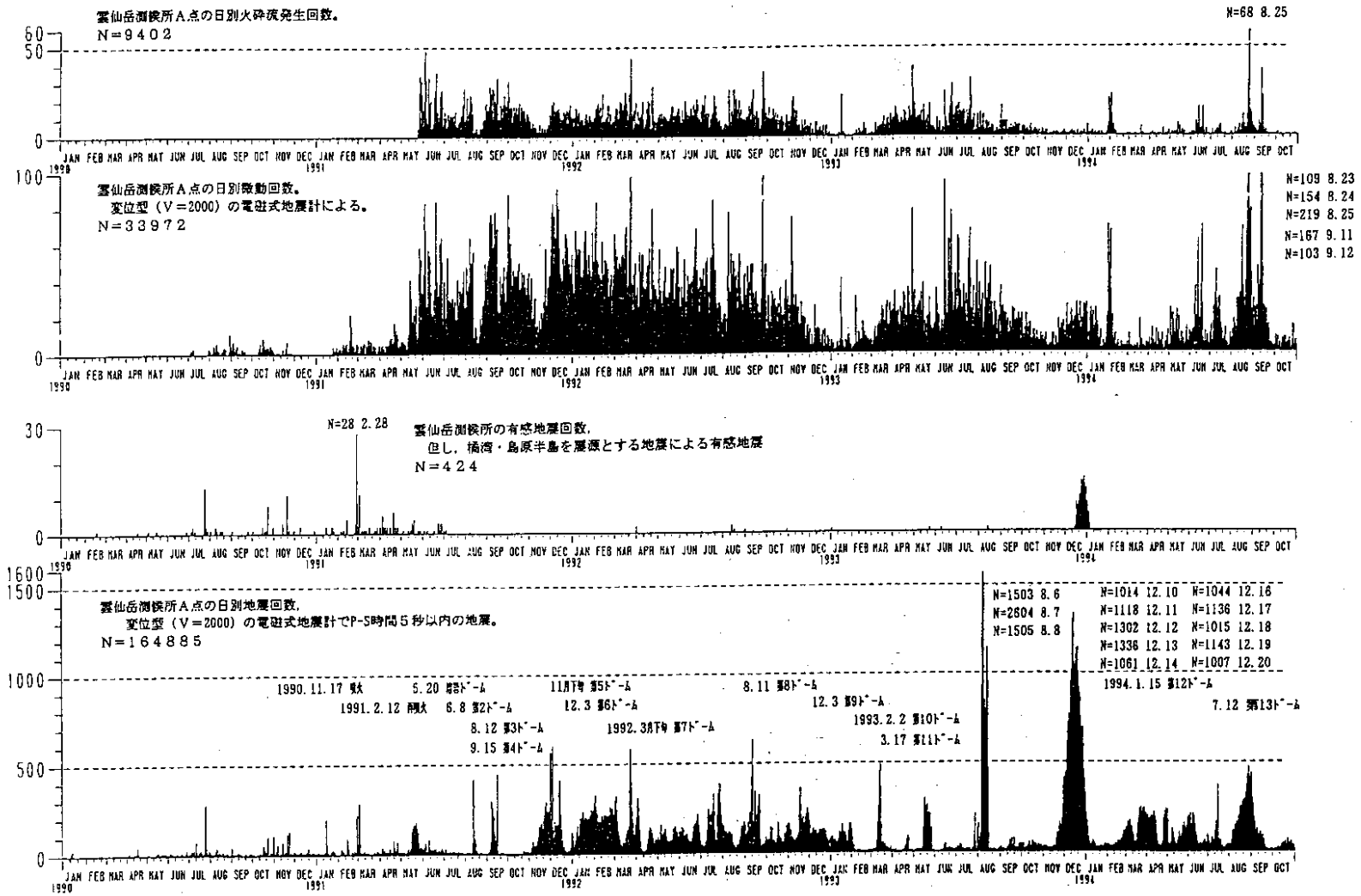
Fig. 3 Seismic activity in the middle region of the Miyazaki prefecture (August - October, 1994).

①: Epicentral distribution, ②: Vertical section along the E - W direction.

③: Space - time plots.

④: Focal mechanism solution (Projected on lower hemisphere). ●: Up, ○: Down.

⑤: M - T diagram, ⑥: List of felt earthquakes.



第3図 雲仙岳測候所における日別地震回数, 有感地震回数, 微動回数 (1990年1月~1994年10月)

A74型直視電磁地震計(変位2,000倍)の記録でP-Sが5秒以内。

Fig. 3 Daily numbers of earthquakes (S - P time  $\leq$  5 sec), felt earthquakes, and volcanic tremors observed by A74 - type visual electro - magnetic seismograph (displacement magnification : 2000) at Unzendake weather station (January, 1990 - October, 1994).